資料1

「明日の日本を支える観光ビジョン」－世界が訪れたくなる日本へ－　概要

平成28年３月30日策定

これまでの議論を踏まえた課題

■我が国の豊富で多様な観光資源を、誇りを持って磨き上げ、その価値を日本人にも外国人にも分かりやすく伝えていくことが必要。

■観光の力で、地域の雇用を生み出し、人を育て、国際競争力のある生産性の高い観光産業へと変革していくことが必要。

■CIQや宿泊施設、通信・交通・決済など、受入環境整備を早急に進めることが必要。

■高齢者や障がい者なども含めた、すべての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような社会を築いていくことが必要。

「観光先進国」への「３つの視点」と「１０の改革」

視　点　1
「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」

■**「魅力ある公的施設」を、ひろく国民、そして世界に開放**
・赤坂や京都の迎賓館などを大胆に公開・開放

■**「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ**
・2020年までに、文化財を核とする観光拠点を全国で200整備、わかりやすい多言語解説など1000事業を展開し、集中的に支援強化

■**「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へ**
・2020年を目標に、全国５箇所の公園について民間の力も活かし、体験・活用型の空間へと集中改善

■**おもな観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ**
・2020年を目途に、原則として全都道府県・全国の半数の市区町村で「景観計画」を策定

視　点　2
「観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に」

■**古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へ**
・60年以上経過した規制・制度の抜本見直し、ﾄｯﾌﾟﾚﾍﾞﾙの経営人材育成、民泊ﾙｰﾙの整備、宿泊業の生産性向上など、総合ﾊﾟｯｹｰｼﾞで推進・支援

■**あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現**
・欧州・米国・豪州や富裕層などをﾀｰｹﾞｯﾄにしたﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ、戦略的なﾋﾞｻﾞ緩和などを実施
・MICE誘致・開催の支援体制を抜本的に改善
・首都圏におけるﾋﾞｼﾞﾈｽｼﾞｪｯﾄの受入環境改善

■**疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化**
・2020年までに、世界水準DMOを全国100形成
・観光地再生・活性化ﾌｧﾝﾄﾞ、規制緩和などを駆使し、民間の力を最大限活用した安定的・継続的な「観光まちづくり」を実現

視　点　3
「すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に」

■**ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞在を実現**
・世界最高水準の技術活用により、出入国審査の風景を一変
・ｽﾄﾚｽﾌﾘｰな通信・交通利用環境を実現
・ｷｬｯｼｭﾚｽ観光を実現

■**「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現**
・「ｼﾞｬﾊﾟﾝ・ﾚｰﾙﾊﾟｽ」を訪日後でも購入可能化
・新幹線開業やｺﾝｾｯｼｮﾝ空港運営等と連動した、観光地へのｱｸｾｽ交通充実の実現

■**「働きかた」と「休みかた」を改革し、躍動感あふれる社会を実現**
・2020年までに、年次有給休暇取得率70%へ向上
・家族が休暇をとりやすい制度の導入、休暇取得の分散化による観光需要の平準化

新たな目標値について

安倍内閣３年間の成果

戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワーク拡大など、**大胆な「改革」**を断行。

	（2012年）		（2015年）
・**訪日外国人旅行者数**は、**２倍増**の**約2000万人**に	836万人	⇒	1974万人
・**訪日外国人旅行消費額**は、**３倍増**の**約３.５兆円**に	１兆846億円	⇒	３兆4771億円

新たな目標への挑戦！

訪日外国人旅行者数	2020年：**4,000万人**（2015年の約2倍）	2030年：**6,000万人**（2015年の約3倍）
訪日外国人旅行消費額	2020年：**8兆円**（2015年の2倍超）	2030年：**15兆円**（2015年の4倍超）
地方部での外国人延べ宿泊者数	2020年：**7,000万人泊**（2015年の3倍弱）	2030年：**1億3,000万人泊**（2015年の5倍超）
外国人リピーター数	2020年：**2,400万人**（2015年の約2倍）	2030年：**3,600万人**（2015年の約3倍）
日本人国内旅行消費額	2020年：**21兆円**（最近5年間の平均から約5%増）	2030年：**22兆円**（最近5年間の平均から約10%増）

国立公園満喫プロジェクト

Ⅰ．背景

明日の日本を支える観光ビジョン

平成28年3月30日策定

訪日外国人旅行者数に関する新たな目標として、2020年に約2倍となる4,000万人を目指す。国立公園は、10本の柱の一つに位置づけ。

国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化

「国立公園満喫プロジェクト」として、まずは5箇所の国立公園で、「国立公園ステップアッププログラム2020」を策定し、訪日外国人を惹きつける取組を計画的、集中的に実施

※2015年の訪日外国人の国立公園利用者数は430万人

Ⅱ．現状と課題

	日本の国立公園	北米の国立公園
自然環境	バラエティ豊かな自然 （多様な自然景観・野生生物と季節変化）	ダイナミックな自然 （規模が大きいが単一的）
土地所有	国・公有地、民有地	国有地（公園専用地）
魅力ポイント	自然と人の暮らしの調和 （自然・文化・歴史・食・温泉…）	人為を排した、原生的な自然

日本の国立公園は、優れた自然のみならず、その自然に育まれた伝統文化や食などの地元特有の人の暮らしに触れられる公園

インバウンドに対して、国立公園のポテンシャルが十分に引き出されていない

①外国人が満喫できるメニュー、快適な利用環境の未整備
②外国人をも魅了する公園利用拠点の不備
③外国人に日本の国立公園の魅力が伝わっていない

Ⅲ．基本的考え方

①**「最大の魅力は自然そのもの」**をコンセプトに、非日常な体験を世界の人々に提供
②最高の自然環境をツーリズムに開放し、**高品質・高付加価値のインバウンド市場を創造**

Ⅳ．選定経緯

平成28年5月10日：　有識者会議設置（3回開催）

平成28年7月25日（第3回）：会議の議論を踏まえ、要望があった16の国立公園の中から、先行的、集中的に取組を実施する**8つの公園を大臣が選定**

阿寒、十和田八幡平、日光、伊勢志摩、大山隠岐、阿蘇くじゅう、霧島錦江湾、慶良間諸島

阿蘇くじゅう国立公園

Ⅴ．今後の予定

平成28年8月目処：8つの公園ごとに**地域協議会**を設置

平成28年12月まで：各地域協議会において**「ステップアッププログラム2020」**を策定

平成29年1月以降：**8公園のビューポイント（重点取組地域）**において、インバウンド増加に向けた**本格的取組を実施**

※選定されなかった8公園についても、1～2カ所のビューポイントにおいて取組を実施

全国の国立公園に展開！！

2020年までに訪日外国人の国立公園利用者数を1000万人に！

先導的モデルとなる国立公園の選定について

参考資料

選定のメルクマールを有識者会議の議論を踏まえて設定

1．地元の熱意と仕組み

①地元の主体性、推進体制の構築　②インバウンド増加に係る戦略・計画の策定

③自然環境（景観を含む）を損なうことのない適正な利用の担保

2．インバウンドを伸長する潜在力（ポテンシャル）

①観光資源としてのポテンシャル　②幅広い主体（観光庁・文化庁・民間等）との有機的連携のポテンシャル

3．特徴あるテーマ性、モデル性

自治体（道県）から**要望があった国立公園は16公園**

- 阿寒国立公園（北海道）
- 日光国立公園（栃木県）
- 中部山岳国立公園（富山県、岐阜県）
- 吉野熊野国立公園（和歌山県）
- 足摺宇和海国立公園（高知県）
- 霧島錦江湾国立公園（鹿児島県、宮崎県）
- 十和田八幡平国立公園（青森県、秋田県、岩手県）
- 上信越高原国立公園（長野県）
- 妙高戸隠連山国立公園（長野県）
- 瀬戸内海国立公園（兵庫県、香川県）
- 雲仙天草国立公園（長崎県）
- 慶良間諸島国立公園（沖縄県）
- 富士箱根伊豆国立公園（静岡県）
- 伊勢志摩国立公園（三重県）
- 大山隠岐国立公園（鳥取県、島根県）
- 阿蘇くじゅう国立公園（熊本県、大分県）

※締め切りまでにメルクマールに沿った総合的評価が可能な情報をいただいた道県に限る

〇**メルクマール**に沿って、総合評価を行った結果、8つの公園を候補として選定

〇選定された公園では複数のビューポイント（重点取組地域）において先行的、集中的に取組を推進

〇要望があったその他の公園についても1，2か所のビューポイントにおいて、それぞれの特性に合ったハードやソフトの取組を実施

全国の国立公園に展開！！

2020年までに訪日外国人の国立公園利用者数を1000万人に！

参考資料

選定された国立公園

国立公園名	選定のポイント
○阿蘇くじゅう	災害復興、カルデラと千年の草原
○阿寒	観光立国ショーケース、エコツーリズム全体構想
○十和田八幡平	震災復興、温泉文化
○日光	欧米人来訪の実績
○伊勢志摩	伝統文化、エコツーリズム全体構想
○大山隠岐	オーバーユースに対する先進的取組
○霧島錦江湾	多様な火山と「環霧島」の自治体連携
○慶良間諸島	地元ダイビング事業者によるサンゴ保全の取組 エコツーリズム全体構想

今後の主なスケジュール

2016（H28）
8月　9月

10-11月　12月　2017（H29）　4月

2020
（H32）

国立公園満喫プロジェクト等推進事業等(H28～32年)

H28補正 約103億円 の内数	H29当初 約101億円 の内数	H30以降も 要求予定

道県ヒアリング

地域協議会準備会合

第1回地域協議会

たたき台
ステップアッププログラム

第2、3回地域協議会等

策定
ステップアッププログラム

ステップアッププログラム
に基づき各種取組を実施

外国人国立公園利用者数
1000万人

有識者会議委員等の
アドバイザーから助言

ステップアッププログラム2020に盛り込む取組（例）

1. 交通拠点から国立公園までのアクセスルート

方向性

国立公園に加えて公園に至るアクセスルートを含む全域を「保全区域」と認識し、看板、廃屋等、眺望を妨げるもの一切を撤去するなど、自然の魅力を最大限引き出す。

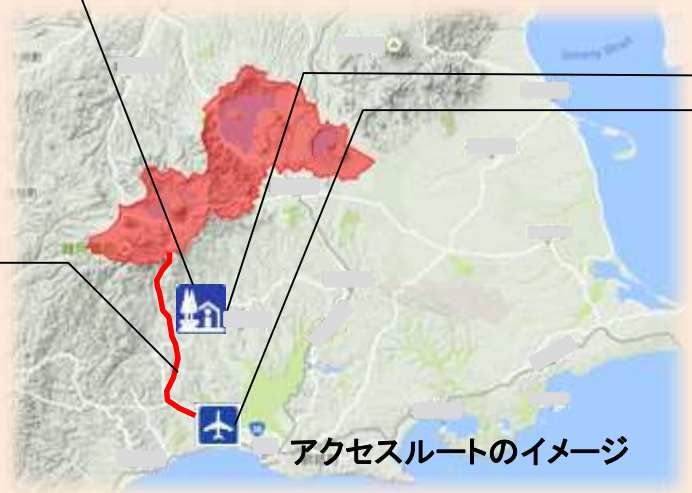
①外国人観光客の主要交通拠点の洗い出しと同拠点における国立公園への誘導情報の提供

②自然景観や文化財等の所在も踏まえ、屋外広告物の制限や撤去、電線の地中化、街並みの統一に　向けた 関係者の協力が得られる主要アクセスルートの設定と、景観整備に必要な仕組みづくり

③アクセスルート上のトイレ等のユニバーサルデザイン化、多言語案内の設置

ユニバーサルデザイン化等

アクセスルート沿いの
景観整備



空港、道の駅等における
国立公園の情報提供

ステップアッププログラム2020に盛り込む取組（例）

2. 国立公園区域内

方向性 大自然の中に身を置き、体感できるよう、上質な宿泊・滞在施設の誘致やツアー・プログラムの開発などにより、公園区域内の大胆な利用の拡大を図る。

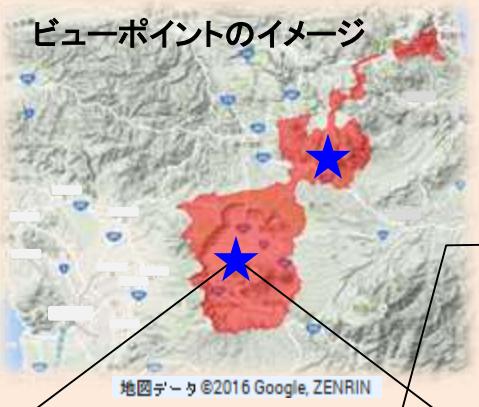
①ビューポイント（重点取組地域）の設定。案内標識等のデザイン統一、多言語化、IT活用による情報提供等をセットにした利用施設の整備、景観上の障害物の除去等

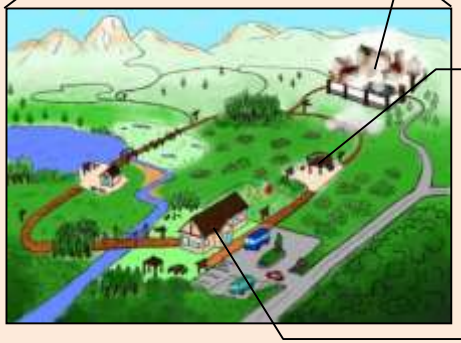
②上質な宿泊・滞在施設の誘致に向けた拠点設置の候補となるエリアの絞り込み。上記施設誘致に向けた地元関係者間の合意形成。利用施設計画の柔軟な見直し（歩道等を含む）

③廃業宿泊施設等のリニューアル、ビジターセンターにおける新サービスの提供、美しい街並みの整備、屋外広告規制や景観統一に向けた仕組みづくり、Wi-Fi環境の整備、国有林野の活用等の検討

④園内ルート周辺における景観障害物撤去の仕組みづくり

⑤地域へのインバウンドが求めるニーズ情報の整理や、ニーズに即した公園内の観光資源にかかる映像・動画の収集。観光資源を活用した魅力的なプログラムの開発、ガイド育成





廃屋撤去後の利用施設の整備

展望地の整備とITを活用した解説案内

VCにおける新サービス例）ツアーデスク設置

3. プロモーション・誘導策

方向性 国の機関によるプロモーション活動。それと連動した地域ならではの情報の発信